

登下校見守りボランティアの会を開催した。現在20名の方が登録いただき、年間200日、登校時と下校時に校区内随所で子どもたちを見守ってくださる。校門まで付き添って歩いてくださったり、下校時には校門まで迎えに来ていただいたりする方もある▼まもなく1学期が終わろうとしているが、子どもたちの登下校の様子について、忌憚なく話をしていただいた▼サルの大群に通学路をふさがれたこと。自転車さんの前の横断歩道で、危うく車が突っ込んできそうになったこと。下校時最後の一人になる子への心配。子どもたちのあいさつについてはお叱り。心配とお叱りばかりではない、真似をするとよい高学年の姿を聞くと、強張った表情も少し和らぐ▼ボランティアの方が言われた言葉が印象に残る「青信号でも子どもたち自身が安全を確認することをご指導ください」たしかにそうだ。横断歩道は安全な場所ではないかもしれない▼その一方で、信号のない横断歩道で止まってくださる多くの方への感謝の気持ちを育てたい▼右左右右を見て、手を上げ「ありがとう」「おはようございます」笑顔とともに横断歩道をわたる阿下喜小学校の子どもたちはどうだろう。ここは阿下喜の子どもたちが通る横断歩道なのだ！大げさかもしれないが、アピールをしよう。横断歩道で止まってくださるドライバーが増えるかもしれない。命が守れる。